

平成16年度（第48回）

岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

小学校国語科における話し手の意図をつかみながら聞く 能力を高める指導に関する研究

- 「聞き取り再構成メモ」を用いた学習をとおして -

平成17年2月8日
長期研修生
所属校 平泉町立平泉小学校
遠藤伸枝

<目 次>

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容	1
2 研究の方法	2
3 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想	2
(1) 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本的な考え方	2
(2) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れる意義	3
(3) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた学習指導の展開	4
(4) 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想図	4
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	6
(1) 実態調査の目的と内容	6
(2) 調査結果の分析と考察	6
(3) 実態調査から明らかになった問題点と課題	7
3 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた手だての試案の作成	8
(1) 手だての試案作成の観点	8
(2) 手だての試案	8
(3) 検証計画	9
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	10
(1) 単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導計画	10
(2) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた授業実践の概要	11
(3) 実践結果の分析と考察	16
5 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する研究のまとめ	19
(1) 成果	19
(2) 課題	19
研究のまとめと今後の課題	19
1 研究のまとめ	19
2 今後の課題	20

<おわりに>

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

小学校高学年国語科においては、話し手の意図をつかみながら聞くことが求められている。特に、聞き手にとっては、話し手との的確な伝達や思いの共有のために、聞くことの目的や意図を明確にし、話し手が伝えたかったことを考えたり話の内容について自分の考えをもったりすることが必要である。

しかし、児童は好んで人の話を聞こうとするものの、話し手の伝えたかったことに結び付く言葉や工夫された話の組立て等に気付くことができなかつたり、自分の経験や考えと比べながら聞くことができなかつたりする。このことは、話し手の意図をとらえるための観点をもちながら聞かせる指導や、話し手の思いと自分の思いをかかわらせて考えさせる指導が十分ではなかつたことが原因と思われる。

このような状況を改善していくには、話を聞き取る観点を明らかにして、話し手の伝えたかったことにつながるキーワードをとらえ、聞き取ったメモを基に自分の言葉で組立て直す再構成の活動が必要である。そのことにより、自分の考えをもって話し手の意図をつかみながら聞く能力が高まっていくと考える。

そこで、この研究は、「聞き取り再構成メモ」を用いた学習をとおして、話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導の在り方を明らかにし、小学校国語科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

小学校高学年国語科において、次のように聞き取り再構成メモを用いて学習すれば、話し手の意図をつかみながら聞く能力を高めることができるだろう。

- ・話の組立てや文の成分を観点として話を聞き、メモを取る。
- ・キーワードから話し手の伝えたかったことをつかむ。
- ・話し手の伝えたかったことを、自分の言葉を交えて組立て直す。

研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想の立案

小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本的な考え方をまとめ、構成要素を明らかにするとともに、仮説に基づき、話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導についての基本構想を立案する。

- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

児童の話し手の意図をつかみながら聞く経験に関する実態を調査し、その分析と考察を行い、問題点と課題を把握し、手だての試案の作成に役立てる。

- (3) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動についての手だての試案の作成

基本構想及び実態調査に基づき、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた手だて

の試案を作成する。

(4) 授業実践

聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた学習指導について、手だての試案に基づき単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の授業実践を行う。

(5) 実践結果の分析と考察

検証計画に基づいて、小学校高学年国語科において話し手の意図をつかみながら聞く能力の構成要素の育成状況について分析と考察を行う。

(6) 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づいて、小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する研究のまとめをする。

2 研究の方法

(1) 文献法

先行研究や文献を参考にし、小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想を立案する。

(2) 質問紙法

選択法による質問紙を用いて、児童の実態調査及び話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する意識調査を行う。

(3) テスト法

記述式による調査問題を用いて、「聞き取りの観点に着目する力」「キーワードを見付ける力」「話し手の伝えなかったことを受け止める力」の育成状況を確認するテストを行う。

(4) 授業実践

手だての試案に基づいて、児童に聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた授業実践を行う。

3 授業実践の対象

平泉町立平泉小学校 第5学年（男子14名 女子12名 計26名）

研究結果の分析と考察

1 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想

(1) 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本的な考え方

ア 話し手の意図をつかみながら聞く能力を高めることの意義

小学校高学年における「話すこと・聞くこと」の学習をとおして、相手との的確な伝達や豊かな思いの共有をしていくためには、話すことだけでなく主体的に聞く力をつけていくことが重要である。特に小学校高学年においては、解決したい、共通理解をしたい、新たな考えを生み出したいなどという目的での話し合いの機会が増えてくる時期でもある。相手の考

えを受け止めた上で自分の考えを練り上げる話し合いを充実させるために、話し手の意図をつかみながら聞く能力を高めることが必要である。

イ 話し手の意図をつかみながら聞く能力とは

話し手の意図をつかむとは、「話し手が聞き手に伝えたかったことを感じ取り、自分のものとして受け止めること」と考える。まず、話し手が聞き手に伝えたかったことを感じ取るとは、「キーワードをよりどころにして、話し手の伝えたかった内容や思いをとらえること」である。また、よりどころとなるキーワードを見つけるためには、話の組立てや文の成分に着目して話を聞くことが重要であると考えられる。次に、自分のものとして受け止めるとは、「話し手の伝えたかったことを自分の考えをもってとらえること」である。そのためには、感じ取ったことを自分の生活や意見と対比させることが重要である。そこで、本研究で目指す話し手の意図をつかみながら聞く能力を、「話し手の伝えたかった内容や思いを自分の生活や意見と対比させ、自分の考えをもってとらえながら聞く能力」とする。

この話し手の意図をつかみながら聞く能力は、「聞き取りの観点に着目する力」「キーワードを見付ける力」「話し手の伝えたかったことを受け止める力」の三つで構成されると考える。「聞き取りの観点に着目する力」とは、話し手の話を聞く観点として話の組立てや接続語・述語などの文の成分に注目する力である。「キーワードを見付ける力」とは、話の組立てや文の成分を観点として話を聞き、メモした言葉の中から話し手の伝えたかったことにつながる言葉を選び出す力である。「話し手が伝えたかったことを受け止める力」とは、感じ取った話し手の伝えたかった内容や

【表1】話し手の意図をつかみながら聞く能力の構成要素

構成要素	構成要素の意味
聞き取りの観点に着目する力	話の組立てや文の成分に着目する力
キーワードを見付ける力	話し手が伝えたかったことにつながる言葉を選び出す力
話し手の伝えたかったことを受け止める力	話し手が伝えたかった内容や思いを自分の生活や意見と対比させながらとらえる力

思いを、自分の生活や意見と対比させることで自分の考えをもってとらえる力である。これらの要素をまとめたものが【表1】である。

以上のことから、本研究の目指す児童の姿を「話の組立てや文の成分に着目して話を聞き、キーワードをとらえ、話し手の伝えたかった内容や思いを自分の生活や意見と対比して受け止めることができる」とする。

(2) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れる意義

ア 聞き取り再構成メモとは

話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める手だてとして、本研究では聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れる。再構成するとは、「話を聞き感じ取った話し手の伝えたかったことを、自分の生活や意見と対比させながら自分の言葉で組立て直す活動」ととらえる。聞き取り再構成メモは、話し手の伝えたかったことを自分のものにするために考えたものであり、次の三つの役割をもたせることとする。

(7) 聞き取りの観点に着目させる

話を聞き取る観点として、話の組立てや文の成分に注目させ、主体的な聞き取りを促す。

(イ) 話の中心につながるキーワードを選び出させる

聞き取ったメモの中からキーワードを選び出し、話し手の伝えなかったことの把握に役立てる。

(ウ) 話し手の伝えなかったことを再構成させる

キーワードから感じ取った話し手の伝えなかったことを、自分の生活や意見と対比させて話を組立て直す。

イ 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れる意義

聞き取り再構成メモを用いることにより、児童は聞き取りの観点をもって聞くようになり、話し手の伝えなかったことにつながるキーワードがとらえやすくなる。また、話し手の伝えなかったことを自分の生活や意見と対比させ、自分のものとして受け止めることができる。このように、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れることは、話し手の話に対し自分の考えをもちながら聞くことにつながり、話し手の意図をつかみながら聞く能力を高めるという点で意義があると考えられる。

(3) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた学習指導の展開

聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた学習指導では、聞き取り再構成メモを次の三つの段階で用いることにする。

ア 聞く観点に着目する段階

話の組立てに気付いたり、接続語や述語（文末表現）などの文の成分に着目したりすることを学ぶ。このことにより聞き取るべき内容が明確になり、焦点化したメモを取ることができる。

イ キーワードをとらえる段階

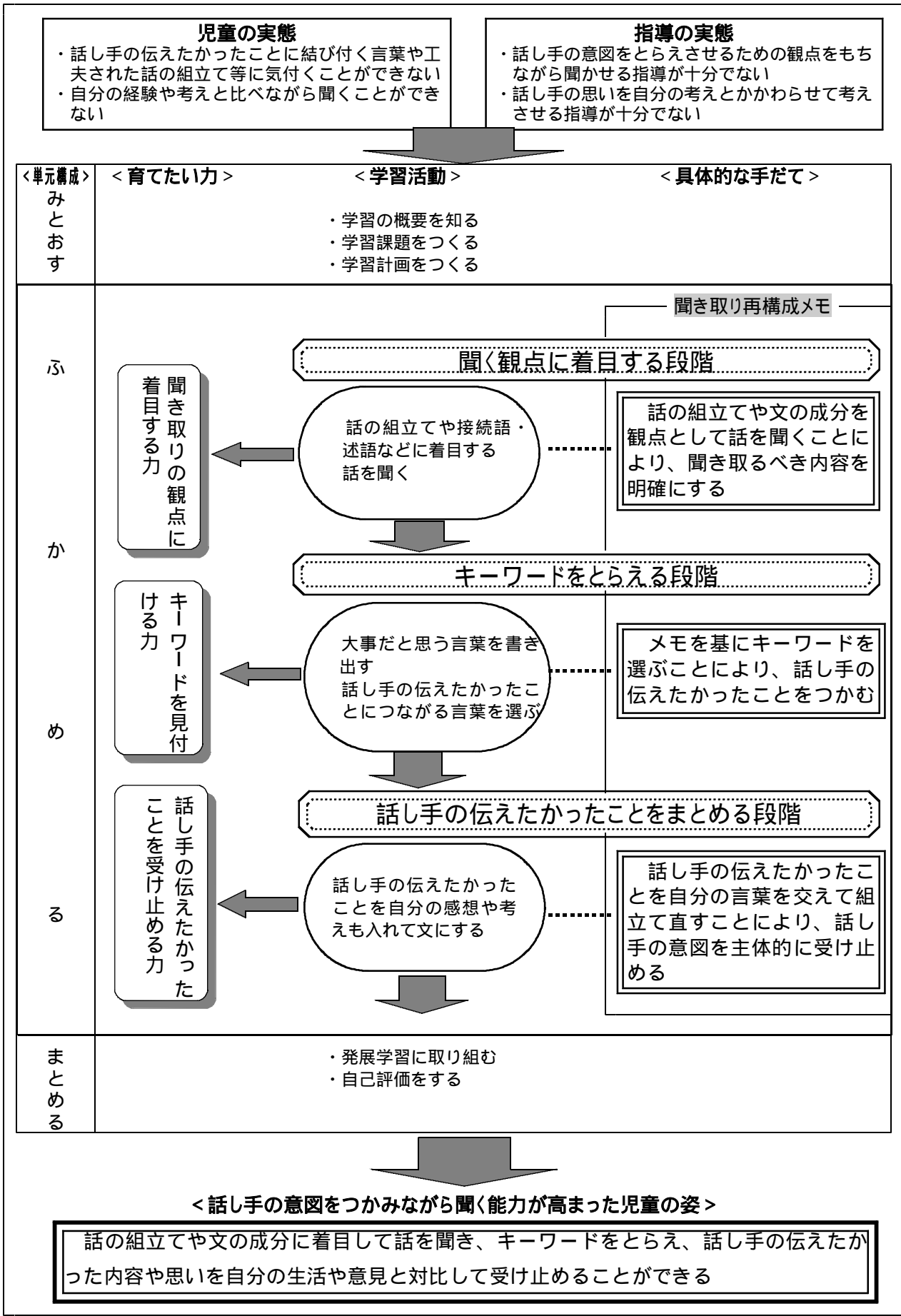
話の組立てや文の成分に着目して話し手の話を聞きながら大事だと思う言葉をメモし、話し手の伝えなかったことにつながるものをキーワードとしてとらえる。このことにより、話し手の伝えなかった内容や思いをキーワードから感じ取ることができる。

ウ 話し手の伝えなかったことをまとめる段階

話し手の伝えなかった内容や思いを、キーワードを基に自分の感想や考えも交えて組立て直す。このことにより、話し手の伝えなかったことについて自分の考えをもちながら主体的に受け止めることができる。

(4) 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想図

これらの基本的な考え方にに基づき、小学校高学年国語科において話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想図を次頁【図1】のように作成した。



【図1】話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

手だての試案を作成するにあたって、児童の国語の学習における話し手の意図をつかみながら聞く活動に関する実態を把握するために、次のような目的と内容で質問紙を作成し、7月20日に実態調査を行った。

ア 調査の目的

この調査の目的は、研究対象となる5年生児童の話し手の意図をつかみながら聞く活動や意識の実態を把握し、その問題点や課題について明らかにし、手だての試案の作成に役立てることである。

イ 調査の内容

- (ア) メモを取りながら話を聞く経験に関する内容
- (イ) 話を聞いているときの状況に関する内容
- (ウ) 自分の考えを話し手に対して表出することの意識に関する内容

ウ 調査の対象

平泉町立平泉小学校 第5学年（男子14名 女子12名 計26名）

実態調査の具体的な観点と設問内容は、次の【表2】のとおりである。

（調査問題については、巻末の補充資料【補充資料1】を参照のこと）

【表2】実態調査の具体的な観点と設問内容

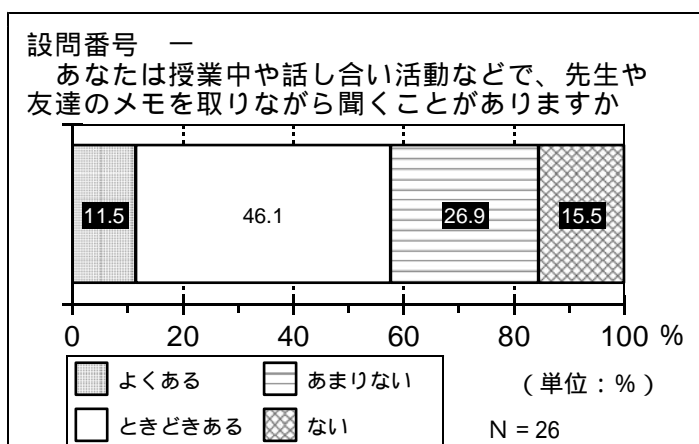
設問番号	調査の観点	設問内容
一	メモを取りながら話を聞く経験の有無	授業中や話し合い活動などで、先生や友達の話をも取りながら聞くことがあるか
二	話を聞いているときの状況	話を聞いているとき、その話に対する自分の考えを思い付くことがあるか
三	自分の考えを話し手に対して表出することの意識の実態 ・表出の有無 ・表出しない理由	・話し合い活動のとき、友達の考えを聞いて、それに対する賛成意見や反対意見を言うことがあるか ・賛成意見や反対意見を言わない理由は何か

(2) 調査結果の分析と考察

ア メモを取りながら聞くこと状況

【図2】は、授業中や話し合い活動をしているときなどに、メモを取りながら聞くこと経験の有無について調査した結果である。「よくある」は11.5%、「ときどきある」は46.1%、「あまりない」は26.9%、「ない」は15.5%となっている。

このことから、約4割の児童はメモを取りながら話を聞くということをあまりしていないことが分かる。

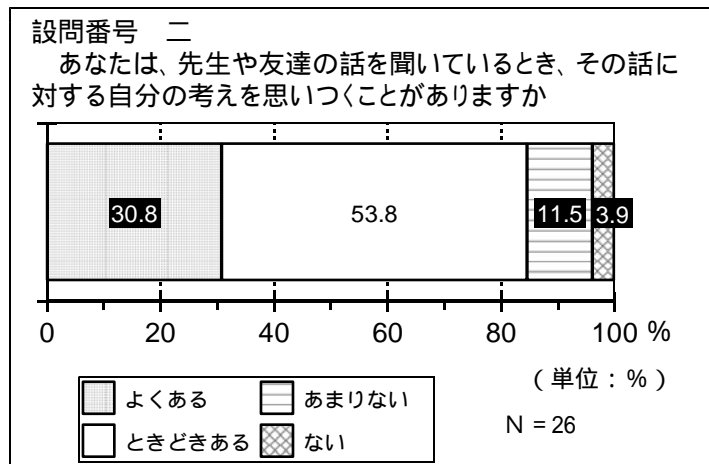


【図2】メモを取りながら聞くこと経験の有無

イ 話を聞いているときの状況

【図3】は、人の話を聞いているときに、その話に対する自分の考えを思いつくかどうかの状況について調査した結果である。「よくある」は30.8%、「ときどきある」53.8%、「あまりない」は11.5%、「ない」は3.9%になっている。

このことから、児童の約8割は話を聞きながらその話に対して自分の考えを思いつくと答えており、話し手の話について考えながら聞いていることが分かる。

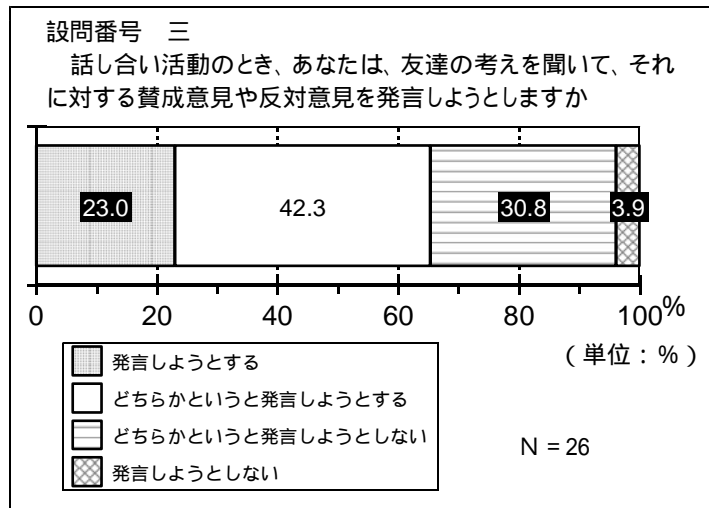


【図3】話を聞いているときの状況

ウ 聞いたことを基にした自分の意見を表出することの意識

(7) 【図4】は、聞いたことを基にした自分の考えを話し手に対して表出することの意識について調査した結果である。「発言しようとする」は23.0%、「どちらかという発言しようとする」は42.3%、「どちらかという発言しようとしない」が30.8%、「発言しようとしない」が3.9%になっている。

2(2)イ「話を聞いているときの状況」の結果では、児童の約8割が話を聞いて自分の考えを思いつくとしながらも、この項目では約3割の児童があまり表出しようとしていないことが分かる。



【図4】聞いたことを基にした自分の考えを表出することの意識

(1) 【表3】は、設問番号「三 表出の有無」で「どちらかという発言しようとしない」「発言しようとしない」と答えた児童の、その理由について記入された一部である。話すことに自信をもてないため発言しないという意見が多いことが分かる。

【表3】「どちらかという発言しようとしない」「発言しようとしない」と答えた理由(一部抜粋)

・考えが浮かばない	・言うのに自信がない	・むずかしい感じがする
・緊張して失敗をしたくないからあまり発表しない	・まちがいやすいから	
・話すのは苦手なので、発言したくてもうまく話せないの自分で分かってても発言しない		

(3) 実態調査から明らかになった問題点と課題

実態調査の分析から明らかとなったことを整理し、その要因をとらえることによって、課題を明らかにする。

ア 実態調査の分析から明らかになったこと

(7) メモを取りながら聞くことをしないと答えた児童が42.4%おり、そのうちの36.7%の児童は話を聞いているときに自分の考えが思いつかないと答えている。また、メモを取らない児

童の81.8%は、聞いたことに対する自分の考えを発言しようとしていないと答えている。

- (イ) 話し手の話を聞いて自分の考えを思いつく児童が84.6%と多いが、全体の約3割の児童は聞いたことを基にした自分の考えを発言しようとしてはいない。
- (ウ) 聞いたことに対する自分の考えを発言しようとしていない児童のうち、8割近くがメモを取りながら聞くことに消極的である。

イ 要因

- (ア) メモを取りながら聞くことをしない児童は、話を聞く観点やメモの取り方が分からずに漠然と聞いていることが考えられる。そのために、自分の考えも思いつかないことが予想される。
- (イ) 約8割の児童が話し手の話を聞いているときに自分の考えを思いつくとしているが、そのうち20.0%の児童は話すことの抵抗感から、自分の意見を発言しようとしていないと思われる。

ウ 課題

- (ア) 話を聞くときの観点やメモの取り方が理解しやすく、メモを取ることで自分の考えが思いつきやすくなるような、聞き取り再構成メモを作成することが必要である。
- (イ) 話し手の話に対する自分の考えがあっても発言しようとしなない児童が、メモを取りながら聞くことで抵抗なく自分の考えを表出できるような、聞き取り再構成メモを作成することが必要である。

3 聞き取り再構成メモを用いた学習指導を取り入れた手だての試案の作成

(1) 手だての試案作成の観点

基本構想及び実態調査の分析結果より明らかとなったことを考慮して、以下の観点から聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた手だての試案を作成していくことにする。

ア 話を聞くときの観点や、キーワードの見付け方が理解しやすくなる工夫

イ 聞いた話に対する自分の考えを表出できるようになる工夫

(2) 手だての試案

手だての試案作成の観点を基に、聞き取り再構成メモを用いた学習活動の指導上の留意点を以下のように考える。

ア 観点やキーワードをとらえやすくする工夫

観点がキーワードを見付けることに直接結び付くようにし、キーワードを見付けることと観点を意識することが連動するようにする。また、メモを取ってからキーワードを見付ける順番で活動させることで、メモを振り返り、話の内容を振り返るようにさせる。

イ 自分の考えを表出できるようになる工夫

キーワードを見付けることで話の内容を振り返り、どう受け止めたのかを再構成の中に入れさせる。話し手に語りかける形でまとめさせることにより、話し手を意識させる。

これまで述べてきたことを基に、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた手だての試案を次頁【表4】のように作成した。聞き取り再構成メモは段階ごとに、内容に合わせて活用することとし、「聞く観点到着目する段階」では「ポイントキャッチメモ」、「キーワードをとらえる段階」では「キーワードキャッチメモ」、「話し手の伝えたかったことをまとめる段階」では「ハートキャッチメモ」とする。

【表4】聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた手だての試案

単元の段階	段階	学習活動	指導の手だて	
			聞き取り再構成メモの活用	指導上の留意点 〔太字部分は実態調査を受けた配慮事項〕
ふかめる	聞く観点に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞くときの観点に気付く 観点に沿って話を聞く 	<p>聞く観点に着目するためのメモ</p> <p>ポイントキャッチメモ</p> <p>【話の組立て】「はじめ・中・おわり」の枠に文を分ける</p> <p>【文の成分】ポイントとなる接続語や述語に印を付けたり、書き抜いたりする</p> <p>事実を表している文と意見を表している文と分ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短い内容で、構成が分かりやすい話から聞かせていく 文に番号を付け、その番号を「はじめ・中・おわり」の枠に入れるだけの作業にする 書き抜くのは意見を表す述語のみにし、メモを書く負担を減らす
	キーワードをとらえる	<ul style="list-style-type: none"> メモを取る 話し手の伝えなかったことにつながる言葉はどれか考える キーワードから感じ取ったことをまとめる 	<p>キーワードをとらえるためのメモ</p> <p>キーワードキャッチメモ</p> <p>大事だと思う言葉を短くメモする</p> <p>聞く観点に沿って、話し手が一番伝えたいと思われることをとらえる</p> <p>一番伝えたいと思われることに関連のある言葉をキーワードとして選ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 構造的なメモの取り方になるよう、話し手が一番伝えたいと思われることを□で、その部分に関連のある言葉を○で囲むことを指示する その他にも矢印や記号の使い方の工夫を指導する
	まとめる	話し手の伝えなかったことを	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の伝えなかったことをキーワードを基に自分の考えも含めて組立て直す 	<p>話し手の伝えなかったことをまとめるためのメモ</p> <p>ハートキャッチメモ</p> <p>キーワードを選ぶ</p> <p>話し手の伝えなかったことに対する自分の考えを交えて、話し手の伝えなかったことを組立て直す</p>

(3) 検証計画

授業実践をとおして手だての試案の妥当性をみるために、次のような検証計画を作成し、事前と事後にテストを実施し、検証を進めることにする。

ア 話し手の意図をつかみながら聞く能力の高まりの状況を見るための検証

話し手の意図をつかみながら聞く能力の高まりの状況を見るために、構成要素の「聞き取りの観点に着目する力」「キーワードを見付ける力」「話し手の伝えなかったことを受け止める力」について、テスト問題【補充資料2】を作成し、事前と事後に実施してその結果を比較する。

この検証計画をまとめたものが次頁【表5】である。また、テストの他にも、授業で用いた聞き取り再構成メモへの記述を次頁【表6】の構成要素の判断の観点と記述内容から判断する

ときの基準により分析・考察をし、テストと関連付けてまとめる。

【表5】話し手の意図をつかみながら聞く能力の検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
力の育成状況	聞き取りの観点に着目する力 キーワードを見付ける力 話し手の伝えなかったことを受け止める力	・テスト法により、事前事後に実施する	・t検定（平均の差の検定）を行い検定する
活動段階ごとの力の育成状況		・児童の聞き取り再構成メモへの記述により検証する	・～ について【表6】の判断の観点と判断の基準により分析・考察をする

【表6】構成要素の判断の観点と記述内容から判断するときの基準

構成要素	判断項目	判断の観点	判断するときの基準		
			A	B	C
聞き取りの観点に着目する力	話の組立てを判断できる	・話の内容を「はじめ・中・おわり」に分けられるか	「はじめ・中・おわり」の区切りが全部合っている	「はじめ・中・おわり」の区切りが1カ所のみ合っている	「はじめ・中・おわり」の区切りが全部合っていない
	文の成分に着目している	・接続語や述語（文末表現）によって事実の文と意見の文に分けられるか	事実の文も意見の文もとらえることができ、分けることができる	意見の文をとらえることはできるが、事実の文はとらえられない	事実の文も意見の文もとらえられず、分けることができない
キーワードを見付ける力	話し手の伝えなかったことにつながる言葉を選ぶことができる	・書き取ったメモの中から、話し手の伝えなかったことにつながる言葉を選べるか	書き取ったメモの中から、話し手の伝えなかったことにつながる言葉をすべてキーワードとして選んでいる	書き取ったメモの中から、話し手の伝えなかったことにつながる言葉をキーワード全体の6割以上選んでいるが不足している	書き取ったメモの中から、話し手の伝えなかったことにつながる言葉をキーワード全体の6割未満しか選んでいない
話し手の伝えなかったことを自分の考えも交えて受け止める力	話し手の伝えなかったことを自分の考えも交えて組立て直す	・キーワードを基に考えているか ・聞いたことへの自分の考えも交えて再構成しているか	話し手の伝えなかったことにつながるキーワードを用い、自分の考えも交えて再構成している	話し手の伝えなかったことにつながるキーワードを用いてはいるが、自分の考えを交えずに再構成している	話し手の伝えなかったことにつながるキーワードをとらえられず再構成できない

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導計画

単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導計画を作成した。以下は手だての試案に基づく指導計画と内容である。（学習指導案は【補充資料3 ～】参照）

【資料1】単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導計画（7時間扱い）

時	学習指導目標	学習活動	聞き取り再構成メモの使い方
みとおす	1 学習計画を立て、学習課題を設定する	学習計画を立てる ・学習計画を立て、学習内容を把握する 学習課題を設定する ・学習課題を設定し、どんな力を付ける学習なのかを把握する	
1	話を聞くときの観点を理解し、観点	話を聞くときの観点到気付く ・話の組立て(はじめ・中・おわり)	話を聞くときの観点(ポイント)をとらえるためのメモ

ふ か め る		に沿って話を聞くことができる ・文の成分（接続語・述語） 観点に沿って話を聞く ・観点に沿って話を聞き、事実を表している文と意見を表す文とに分ける	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ポイントキャッチメモ</div> 話し手が一番伝えたいことは、文章の最初か最後に述べられていること、意見の文に表れていることを学ぶ
	1	メモの取り方を理解し、キーワードをとらえることができる メモの取り方を知る ・言葉を短めにとらえてメモする ・話の組立てに着目してメモを取る メモした言葉の中からキーワードを選ぶ ・意見を表す文に着目し、話し手の伝えたかったことに直接かかわる言葉を選ぶ ・キーワードから感じ取ったことをまとめる	キーワードをとらえるためのメモ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">キーワードキャッチメモ</div> キーワードは話し手が一番伝えたいことにかかわる言葉として見付けていくことを学ぶ
	3	話し手の伝えたかったことを自分の考えも含めて組立て直すことができる キーワードを基に話し手の伝えたかったことを受け止め、それに対する自分の意見を含めて話し手の伝えたかったことを組立て直す ・話の要点をつかむ ・自分の考えを含め、伝聞の形で話し手の伝えたかったことを組立て直す	話し手の伝えたかったことをとらえるメモ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ハートキャッチメモ</div> 話し手が伝えたかったことをまとめ、それをどう受け止めたのかを表出することを学ぶ
ま と め る	1	話し合い活動に取り組み、自己評価をすることができる メモを取りながら話し手の話を聞きそれに対して自分の意見を述べる ・話し合い活動を行う 自己評価をする	

(2) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた授業実践の概要

ア 授業実践の計画


- (ア) 対象 平泉町立平泉小学校 第5学年（男子14名 女子12名 計26名）
- (イ) 授業実践期間 平成16年8月30日から9月9日
- (ウ) 指導計画 単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」・・・7時間

イ 授業実践の概要

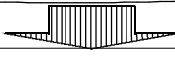


手だての試案に基づいて作成した学習指導案に従い、授業実践を行った。

12頁から15頁までの【資料2】は、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた授業概要である。

【資料2】聞き取り再構成メモ「キャッチメモ」を用いた学習活動を取り入れた授業実践の概要

段階	聞き取りの観点に着目する段階（2/7時）	
メモの活用	<p style="text-align: center;">ポイントキャッチメモ</p> <p style="text-align: center;">話の組立てや文の成分に着目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">「はじめ・中・おわり」に分ける 接続語や述語に着目する 事実を表している文と意見を表している文に分ける</p> </div>	
スピーチ例	<p>その① ぼくは昨日熱を出して寝込んでしまいました。のどもはれて、ご飯がなかなか食べられませんでしたもう病気にはなりたくないなあと思いました。</p> <p>その② ① みなさんは新幹線に興味がありますか。ぼくは新幹線に乗るのも見るのも大好きです。なぜなら、形がかっこいいし、速く走るからです。だから、大人になったら、新幹線の運転手になりたいです。</p>	<p style="text-align: center;">読む速さ 1分間250字程度</p>
学習活動	<p style="text-align: center;"><学習の流れ></p> <p>(1) ポイントキャッチメモの表面【補充資料4】を用い、文章を見ながら、「はじめ・中・おわり」に分けたり、意見の文・事実の文に分けたりする。</p> <p>(2) 裏面では文は見ず、スピーチを聞き記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">文の終わりの言い方に気を付けて聞き、「意見を表している言い方」と分かる言葉はメモしましょう</p> </div> <p>(3) 全員がメモを書き終えたら、メモの内容を全員で確認する。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">は「中」に入ると思います</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 10px;"> <p style="text-align: center;">「なりたいです」は気持ちだから、意見の文だと思います</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おわり 中 はじめ 組立て</p> <p style="text-align: center;">② ①</p> <p style="font-size: small;">次の番号とメモ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おわり 中 はじめ 組立て</p> <p style="text-align: center;">③ ② ①</p> <p style="font-size: small;">次の番号とメモ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おわり 中 はじめ 組立て</p> <p style="text-align: center;">④ ③ ② ①</p> <p style="font-size: small;">次の番号とメモ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おわり 中 はじめ 組立て</p> <p style="text-align: center;">⑤ ④ ③ ② ①</p> <p style="font-size: small;">次の番号とメモ</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>☐☐☐部分は児童が書き抜いた、「意見を表している言い方」と分かる言葉</p> </div>	
授業の様子	<p>最初は文を用いてメモの使い方を教える中で、話の組立て、文の成分について説明を行った。3～5文のスピーチをゆっくり話すように心がけた。番号や印を入れるだけでよいメモの形式にしたので、どの児童も抵抗なく取り組んでいた。一方で、意見を表している述語の書き抜きは個人差があったので、一斉指導の中で確認をしながら、個別にも対応をしていくようにした。</p> <p>述語、接続語など、もう少しバリエーションを多くし、話の全体像をとらえながら考えさせるところまで取り組ませることが課題となった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">児童の感想</p> <p>はじめや中やおわりはわかったけど、意見や事実をはんだんするのがむずかしかった。ポイントがつかめなくてよかったです。わかってやってみよう。</p> </div>	


(次の段階へ)

段階	キーワードをとらえる段階（3/7時）	
メモの活用	<p style="text-align: center;">キーワードキャッチメモ</p> <p style="text-align: center;">話し手の伝えたいことにつながるキーワードを選択</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>話の組立てに着目してメモを取る 話し手が一番伝えたかったことは何か考える 一番伝えたかったと思われることにかかわる言葉を選ぶ</p> </div>	
スピーチ例	<p>私は二重とびができるようになりました。</p> <p>どうしてできるようになったかという、毎朝休まず自主練習したからです。お姉ちゃんにとび方を見てもらって、悪いところを直してもらったりしました。放課後も友達の田中さんにコツを教えてもらって、みんな練習しました。</p> <p>こうして、二重跳びができるようになり、努力したかいがあったなと思いました。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; float: right; margin-top: 10px;"> 読む速さ 1分間250字程度 </div>	
学習活動	<p style="text-align: center;"><学習の流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 前時の学習を踏まえて、実際にメモを取っていくことを確認する。 (2) スピーチを聞き（1回のみ）、メモを取る。 (3) 意見の文か事実の文か分ける。 (4) メモの内容を振り返る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 話し手が一番伝えたかったと思われるところは□で、それにかかわる言葉「キーワード」は○で囲みましょう </div> <ol style="list-style-type: none"> (5) スピーチの全文が書かれた紙板書を見ながら、話し手が一番伝えたかったと思われるところと、キーワードを確認していく。 <p>メモをあまり取っていなかった児童は紙板書を見ながら、教師と一緒に内容を確認し、メモの内容を増やすようにした。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 努力の中身をキーワードにするんじゃない？ </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <div style="margin-left: 10px; margin-top: 10px;"> 「努力したかいがあった」が一番伝えたいことだよ </div>
授業の様子	<p>実際にメモを取り始める前に、事前テストのときの児童のメモ例を見せながら、簡潔なメモの取り方の工夫を考えさせた。子どもたちからは「短く書く」「大事な言葉には印を付けたり、色ペンで」など、思っていた以上にポイントをとらえ、自分なりの工夫をしているという意欲が感じられた。また、「キーワード」の選び方は実際にやりながらでないと、なかなか理解ができないようだった。選んでいても自信をもてない児童が多かったため、近くの子と相談する時間を与え、話し合う中でその概念を理解できるようにした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はあたふたしてたけど、どうするのがキーワードかわかった。 ・メモのくふうの勉強ができた。メモがうまくとれると、キーワードを見つかるのもらくだった。 </div>	


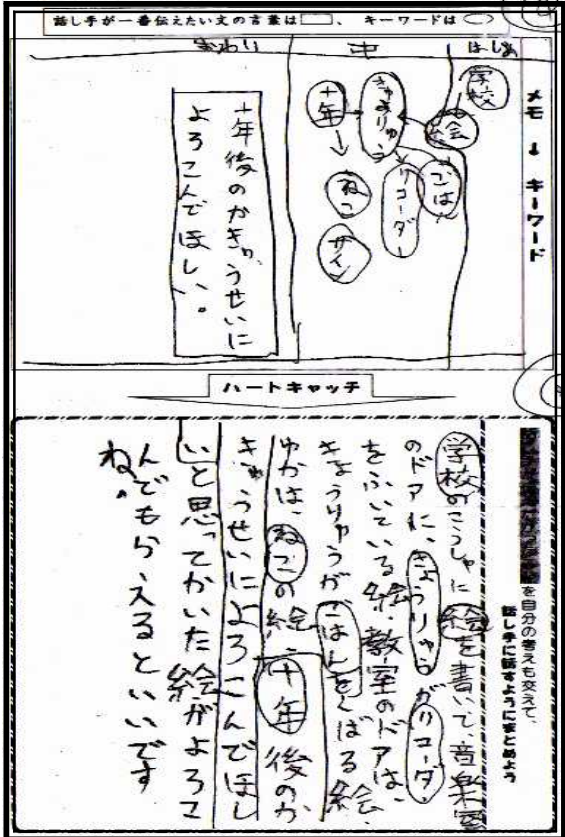
教師の働きかけ

児童の反応

(次の段階へ)

段階	話し手の伝えたかったことをまとめる段階（5/7時）	
メモの活用	<p style="text-align: center;">ハートキャッチメモ</p> <p style="text-align: center;">話し手の伝えたかったことに自分の考えを交えて再構成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>話し手が一番伝えたかったと思われることにかかわる言葉（キーワード）を選ぶ 伝聞の形でまとめる</p> </div>	
スピーチ例	<p>つい先日のですが、蛭を家族で見に行きました。私が小学生にもなっていない小さかった頃、見に行った蛭はとてもきれいでした。しかし、久しぶりに見たその景色には、蛭が一匹しかいませんでした。昔のあのきれいな蛭たちの姿がほとんどあと形もなく消えていました。私が見たのは、蛭を見に来る人のために整備されたと思われる川とその周辺でした。～中略～</p> <p>しかし、そのために蛭が減ってしまったのではしかたありません。どうか私たちより数の少ない蛭を心配してください。養殖された蛭ではなく、自然の蛭が見たいのです。（朝日新聞より引用）</p>	<p>読む速さ 1分間250字程度</p>
学習活動	<p style="text-align: center;"><学習の流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) スピーチを聞き（1回）メモを取る。 (2) メモの内容を振り返り、キーワードを選ぶ。 (3) 話し手が一番伝えたかったと思われるところ、キーワードを確認していく。 (4) キーワードを基にして、話し手が伝えたかったことを自分の考えも交えてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>まとめにも や、が入っているか確認しましょう</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>感想だけや話の中身だけににならないようにまとめなきゃ</p>  </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>話し手が一番伝えたい文の言葉は「養しく」、キーワードは「自然」</p> <p>メモ ↓ キーワード</p> <p>先日（ホタル）家族で見に行く 小さい時、キレイな川に 見に来る人、川、せいで消えた？ 悲しくなった、草、夏を そのために、たじろしかたない 私達よりホタルを大切に</p> <p style="text-align: center;">ハートキャッチ</p> <p>話し手が伝えたかったことを自分の考えを交えてまとめよう</p> <p>山田さんの「ホタル」を見たいという気持ちかわかる気がします。私も去年は、家の近くにちみきぐらいいました。今年も夏は、庭に、2匹くらいいませんでした。山田さんは、ホタルのせい、せいで消えた？私達よりホタルの方が好きです。私もそう思います。山田さんの、私達よりホタルを大切に」という言葉は、本当にホタルが好きなんだなと思いました。</p> </div>
授業の様子	<p>話し手の伝えたかったことをただまとめるだけでなく、そのことに対する自分の考えも交えるように指示をした。また、「～だそうです」のように伝聞の形でまとめさせることにより、話し手の立場でまとめていることを意識できるようにした。</p> <p>メモを取ることが苦手な児童も、この段階に入って大事な言葉だけメモすればいいことを理解でき、徐々にメモを取り始め、まとめもわずかではあるが書く意欲を見せ始めた。ただ、まとめは感想だけになりがちだったので、話の内容全体を振り返ることができるよう個別指導を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">児童の感想</p> <p>ぼくは自分の考えを交えてまとめることがむずかしかったです。使っているうちに大事なことだけキャッチできるようになったので、まとめやすかったです。</p> </div>	

（次の段階へ）

段階	話し手の伝えたかったことをまとめる段階（6/7時）
メモの活用	<p style="text-align: center;">ハートキャッチメモ</p> <p style="text-align: center;">話し手の伝えたかったことに自分の考えを交えて再構成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>話し手が一番伝えたかったと思われることにかかわる言葉（キーワード）を選ぶ 語りかけるようにまとめる</p> </div>
スピーチ例	<p>私の学校では、今年、校舎の白い壁にいろいろ絵を描いて、色塗りもやっています。音楽室のドアは恐竜がリコーダーを吹いている絵、給食室のドアは恐竜がご飯を配っている絵、教室の入り口にはネコの絵など、かわいい絵を仕上げてきました。</p> <p>絵には、最後に自分のサインを入れます。よほどのことがなければ、この絵は10年はもつそうです。私が卒業しても、自分の絵やサインが校舎に残っていると嬉しいです。</p> <p>10年後の下級生たちも喜んでくれるような絵を描きたいです。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 読む速さ 1分間350字程度 </div>
学習活動 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> 教師の働きかけ </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; margin: 10px 0; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ○ </div> 児童の反応	<p style="text-align: center;"><学習の流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) スピーチを聞き（1回）メモを取る。 (2) メモの内容を振り返り、キーワードを選ぶ。 (3) キーワードを基にして、話し手が伝えたかったことを自分の考えも交えてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>実際に、話し手に話しかけるようにまとめてみましょう。話の中のどの部分に対して感じるものがあったのか、話し手に伝わるように気を付けてまとめてみましょう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> (4) 友達のまとめを聞き、自分のまとめに足したいことが出てきたら足す。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="font-size: 10px;">その考え方もいいなあ。私も取り入れてみたいな。</p> </div>  </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div>
授業の様子	<p>話を聞いた後で、話に対する自分の考えを表出しやすいように、あえて話し手に話しかけるように書いてみようという指示をした。すると児童は、自分がより強く感じた点に絞ってまとめをしていく傾向があった。友達のまとめを聞くことで、思いがけない視点に気付くこともあった。個別指導が必要な児童は話し手の話はまとめようとしないうちの、感想だけは書くという反応を見せた。「　さんが～と話したことに対して私は・・・思いました。」というような話型に入れてまとめさせれば、内容についても書けたものと思われる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">児童の感想</p> <p>会話をしたいに書くとき、今までより書きやすかったです。</p> <p>話しかけるようにしようと思った。手言のまとめたいところ、話のキーワードが手にとりやすかったです。</p> </div>

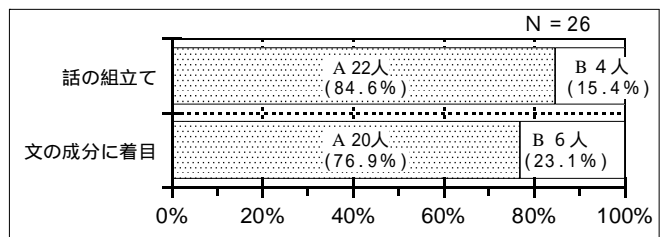
(3) 実践結果の分析と考察

授業実践をとおして手だての試案の妥当性をみるために、話し手の意図をつかみながら聞く能力の三つの構成要素「聞き取りの観点に着目する力」「キーワードを見付ける力」「話し手の伝えなかったことを受け止める力」について、聞き取り再構成メモの記述から10頁【表6】の構成要素の判断の観点と記述内容から判断するときの基準に基づき分析し、考察を行った。また、授業実践の前後に同一問題でテストを実施し、その結果をt検定によって比較し、育成状況をとらえた。

以下は、話し手の意図をつかみながら聞く能力の三つの構成要素別における育成状況である。

ア 聞き取りの観点に着目する力の育成状況

聞く観点に着目する段階では、聞き取りの観点に着目させるために「ポイントキャッチメモ」【補充資料4】を用い、話の内容を「はじめ・中・おわり」に分けさせたり、話し手の伝えなかったことを事実の文と意見の文に分けさせたりする学習を行った。そのポイントキャッチメモの記述を分析し判断した結果をまとめたものが【図5】である。



【図5】ポイントキャッチメモによる聞き取りの観点に着目する力の育成状況

まずはじめに、話の組立てを「はじめ・中・おわり」に判断し分けられるかどうかについてA（「はじめ・中・おわり」の区切りが全部合っている）と判断された児童は84.6%、B（「はじめ・中・おわり」の区切りが1カ所だけ合っている）と判断された児童は15.4%、C（区切りが全部合っていない）はいなかった。Bの記述状況を見てみても極端に見当違いな分け方をしている児童は見受けられなかった。これは、聞き取り再構成メモの最初の段階なので、組立てが理解しやすいように演習に3～5文の短いスピーチを用い、話の構成を単純にしたことでとらえやすくなったためと思われる。

【表7】聞き取りの観点に着目する力の育成状況

次に事実の文と意見の文に分けることについてA（事実の文も意見の文もとらえることができ、分けることができる）と判断された児童は76.9%、B（意見の文はとらえることができるが、事実の文はとらえられない）と判断された児童は23.1%、C（事実の文も意見の文もとらえられず、分けることができない）はいなかった。これは、述語にしぼりメモの中に書き抜かせたことにより、文末表現を観点として事実を表している文なのか、意見を表している文なのかが判断できたためと思われる。

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t 値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
聞き取りの観点に着目する力	1.19	1.84	3.5	1.62	0.28	5.52	*

(注) 1 「聞き取りの観点に着目する力」は6点満点の問題である
 2 事前テストは8月30日、事後テストは9月9日に実施した
 3 t検定に用いた公式は次に示すとおりである

$$t = \frac{X_2 - X_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2 - 2rS_1S_2}{n-1}}}$$

X₁ と X₂ は事前と事後テストの平均点、
 S₁ と S₂ は事前と事後テストの標準偏差、
 r は相関係数、
 n は人数を表す

4 有意差の欄の*は、t検定において有意水準5%で有意差があることを示す

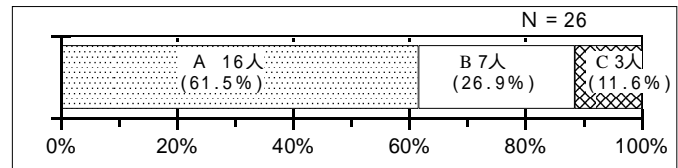
【表7】は聞き取りの観点に着目する力の育成状況についてt検定の結果を表したものである。その結果、有意差が認められた。

これらのことから、「ポイントキャッチメモ」を用いての学習は、聞き取りの観点に着目す

る力を育成する上で効果があったと考えられる。

イ キーワードを見付ける力の育成状況

キーワードをとらえる段階ではキーワードをとらえさせるために「キーワードキャッチメモ」【補充資料5】を用い、メモの中から話し手が一番伝えたかったと思われることを押さえ、それに 関連のある言葉をキーワードとして選ぶ学習を行った。その「キ



【図6】キーワードキャッチメモによるキーワードを見付ける力の育成状況

ワードキャッチメモ」の記述を分析し判断した結果をまとめたものが【図6】である。A（話し手の伝えたかったことにつながる言葉をすべて選んでいる）と判断された児童が61.5%、B（話し手の伝えたかったことにつながる言葉をキーワード全体の6割以上選んでいるが不足している）と判断された児童が26.9%、C（話し手の伝えたかったことにつながる言葉をキーワード全体の6割未満しか選んでいない）と判断された児童が11.6%だった。A、Bの児童とも、聞き取りの観点に沿って話を聞くことにより、メモから話し手が一番伝えたかったと思われることを押さえ、それをよりどころとしてキーワードを見付けることができるようになったことが要因として考えられる。Cの児童には文章の中の単語だけを書き抜くことができず、聞いた文章のまま書こうとして書ききれない様子が見受けられた。「ポイ

ントキャッチメモ」では番号や記号による記述をさせたが、「キーワードキャッチメモ」では言葉による記述をさせたことで難易度が高まったためと考えられる。メモを取ることが苦手な児童には、話を全部聞いた後から、「印象に残っている言葉を 個書いてみよう」などと単語を意識させるような働きかけが必要である。

【表8】キーワードを見付ける力の育成状況

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t 値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
キーワードを見付ける力	3.42	1.45	4.35	1.17	0.64	4.05	*

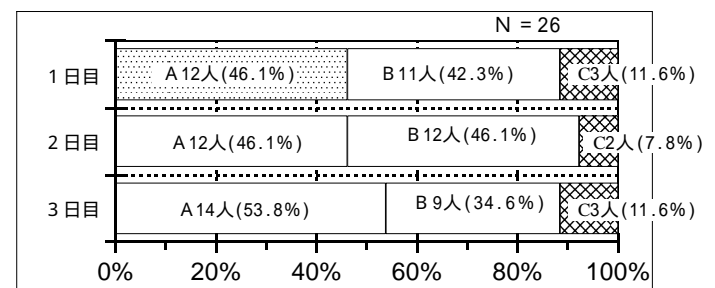
(注) 1 「キーワードを見付ける力」は5点満点の問題である
2～4 【表7】に同じ

【表8】は事前事後テストについての比較により、キーワードを見付ける力の育成状況について、t検定の結果を表したものである。その結果、有意差が認められた。

これらのことから、「キーワードキャッチメモ」を用いての学習は、キーワードを見付ける力を育成する上で効果があったと考えられる。

ウ 話し手の伝えたかったことを受け止める力の育成状況

話し手の伝えたかったことをまとめる段階では、話し手の伝えたかったことをまとめるために「ハートキャッチメモ」【補充資料6～8】を用い、話し手が伝えたかったことを自分の考えも交えて再構成する学習を行った。ハートキャッチは3日間に渡って行っており、回を重ねる毎に聞かせるスピーチを長くして いたり、話す速度を上げたりした。その3



【図7】ハートキャッチメモによる話し手の伝えたかったことを受け止める力の育成状況

日分の「ハートキャッチメモ」の記述を分析し判断した結果をまとめたものが【図7】である。

A（キーワードを用い、自分の考えも交えて再構成している）と判断された児童は、平均すると48.7%、B（キーワードを用いてはいるが、自分の考えを交えずに再構成している）と判断された

児童は平均41.0%、C（キーワードをとらえられず再構成できない）と判断された児童は10.6%だった。

【資料3】は実際のハートキャッチメモの記述例である。Bと判断された児童は自分の考えが記述できていないため自分の考えを交えての再構成に至っていないのに対し、Aと判断された児童は自分の考えを交えて話し手の伝えたかったことを再構成している。

Aと判断された児童の傾向としては、「話し手と自分を重ねて考えることが楽しかった」などと感想を書いてくるように、話し手の伝えたかったことを自分と対比させてとらえている記述内容になっていた。これは、キーワードを選ぶ作業をとおして話し手の伝えたかったことを十分に把握できたためと考えられる。スピーチの難易度を上げてAと判断された児童が減少せず、自分なりの工夫を加えた構造的なメモが取れるようになったことが力を発揮したと思われる。

Bと判断された児童の記述からは、話し手が一番伝えたかったと思われることをメモの中に押さえていないときに自分の考えを交えない傾向が見られた。授業の中で話し手が一番伝えたかったと思われることに印を付けたか確認し、それに伴いキーワードの数が十分かどうかの見直しをすることで、話の全容をもう一度振り返らせる必要がある。

また、Cと判断された児童においては、話の一部分のみをとらえたメモではあるが、単語で書き抜けるようになってきており、その部分に対する感想は書いていた。この感想を基に話の全体像を振り返らせてキーワードをメモさせたり、話し手の一番伝えたかったことに気付かせていく個別指導が必要である。

【表9】は事前事後テストについての比較により、話し手の伝えたかったことを受け止める力の育成状況について、t検定の結果を表したものである。その結果、有意差が認められた。

これらのことから、「ハートキャッチメモ」を用いての学習は、話し手の伝えたかったことを受け止める力を育成する上で効果があったと考えられる。

以上のことから、構成要素の三つの力はおおむね向上が見られたと考える。

【資料3】児童のハートキャッチメモの記述例

C	B	A	判断
ホタルがいらないのはちょっと夏にはさかんなんというかんじがしました。	山田さんは、せじつホタルを見に行つたそうです。とてもけしがきれいだつたそうです。でもそこは、せいびされ、あの時のきれいなホタルはどこに行つたのかと思つたそうです。せいびされたところは、とてもきれいでした。でもホタルはいなくなつたそうです。なので、山田さんは、自然のままのホタルをまた見たいとかんじているようです。	山田さんは「私たちよりホタルをいっぱい」といって、「ようじやくのホタルじゃなくて、しぜんホタルが見たい」といってました。話をきいて山田さんが少しかわいそつになりました。	児童のまとめ(原文のまま) 太字はキーワード、 反転部分は話し手が一番伝えたかったこと 〰線は聞き手の考えを表している部分

【表9】話し手の伝えたかったことを受け止める力の育成状況

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
話し手の伝えたかったことを受け止める力	1.00	1.21	2.08	0.87	0.33	4.35	*

(注) 1 「話し手の伝えたかったことを受け止める力」は3点満点の問題である
 2~4 【表7】に同じ

5 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その妥当性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 聞く観点に着目するためのメモ「ポイントキャッチメモ」を用いたことにより、聞いた話を「はじめ・中・おわり」に分けることや、接続語や述語に印を付けたり、書き抜いたりすることができ、話の組立てや文の成分に着目できるようになった。

イ キーワードをとらえるためのメモ「キーワードキャッチメモ」を用いたことにより、話し手が一番伝えたかったことをとらえ、それに関連のある言葉をメモの中から見付けることができ、話し手の伝えたかったことにつながる言葉を選び出せるようになった。

ウ 話し手の伝えたいことをまとめるためのメモ「ハートキャッチメモ」を用いたことにより、話し手の意図と聞き手である自分を対比させることができ、話し手の話に対する自分の考えを交えながら、話し手が伝えたかったことを再構成することができた。

(2) 課題

ア メモを取ることが苦手な児童に対して、文章の中の単語を意識させる方法や、簡便にメモを取れる方法を検討する。

イ 話を部分的にしかとらえていなかった場合の個別指導として、感想を基にして話を振り返らせ、メモの内容を更に充実させたり、話し手が伝えたかったことを確かめたりする方法を検討する。

以上のことから、課題はあるものの、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた手だての試案は、妥当であったと考える。また、話の組立てや文の成分に着目してキーワードを見付け、自分の経験や考えと対比しながら話を聞くことができるようになるなど、話し手の意図をつかみながら聞く能力を高めることに効果があったと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れたことにより、小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導の在り方について明らかにし、小学校高学年国語科の学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説が妥当であったことが確かめられた。なお、成果として次のようなことが得られた。

(1) 小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本構想の立案

小学校高学年国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する基本的な考え方や、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れる意義と聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた学習指導の展開について明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査の分析と考察

手だての試案を作成するに当たって、児童の国語の学習における話し手の意図をつかみながら聞く活動に関する実態を把握するために、実態調査を行った。調査から明らかになったこと

から手だての試案作成上の留意点をまとめることができた。

(3) 聞き取り再構成メモを用いた学習指導を取り入れた手だての試案の作成

基本構想及び実態調査から明らかになった手だての試案作成上の留意点を基にして、手だての試案を作成した。聞き取り再構成メモを、聞く観点に着目する段階、キーワードをとらえる段階、話し手の伝えなかったことをまとめる段階の三つの段階でそれぞれの目的に合わせて用いる学習指導案作成のための手だての試案とすることができた。

(4) 授業実践

手だての試案に基づいた授業実践により、聞き取り再構成メモを用いた学習活動を取り入れた学習指導についての手だての試案が、児童の話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める上で効果があることが分かった。

(5) 実践結果の分析と考察

授業実践の分析と考察により、話し手の意図をつかみながら聞く能力の育成が認められ、手だての試案の妥当性をみることができた。また、メモの記述内容から一人一人の聞き取り状況をとらえ、個に応じた指導のしかたを考えることが必要なことが分かった。

(6) 小学校国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導に関する研究のまとめ

小学校国語科における話し手の意図をつかみながら聞く能力を高める指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後更に生かすための課題として次のようなことが考えられる。

(1) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動を弾力的に取り入れられるように、小教材として年間数回に分けて取り組む方法や帯学習として1日数分ずつ取り組む方法など、取り組み方を検討する。

(2) 聞き取り再構成メモを用いた学習活動と教科書教材との効果的な組み合わせ方や、国語科以外の学習での聞き取り再構成メモを応用した聞く力の高め方について、実践をとおして確かめる。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

瀬川榮志・松澤文人(2004), 『「伝え合う力」を育てる基本話型・基本聴型ワーク 高学年』, 明治図書

對馬義幸・研究集団ことのは(2002), 『受信型メモ・発信型メモの技術』, 明治図書

野口芳宏(2002), 『話すこと聞くことマスターカード』, 明治図書

堀裕嗣・研究集団ことのは(2002), 『聞き方スキルを鍛える授業づくり』, 明治図書

【 補 充 資 料 】

< 目 次 >

【 補 充 資 料 1 】

手だての試案作成のための実態調査問題・・・・・・・・・・・・・・・・資 1

【 補 充 資 料 2 - 1 】

話し手の意図をつかみながら聞く能力の育成状況を見る事前・事後テスト用紙・・・・・・・・資 1

【 補 充 資 料 2 - 2 】

話し手の意図をつかみながら聞く能力の育成状況を見る事前・事後テスト問題・・・・・・・・資 2

【 補 充 資 料 3 - 1 】

単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導案・・・・・・・・・・・・・・・・資 3

【 補 充 資 料 3 - 2 】

単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（2/7時間）・・・・・・・・資 3

【 補 充 資 料 3 - 3 】

単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（3/7時間）・・・・・・・・資 4

【 補 充 資 料 3 - 4 】

単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（4/7時間）・・・・・・・・資 4

【 補 充 資 料 3 - 5 】

単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（5/7時間）・・・・・・・・資 5

【 補 充 資 料 3 - 6 】

単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（6/7時間）・・・・・・・・資 5

【 補 充 資 料 4 - 1 】

ポイントキャッチメモ（表面）・・・・・・・・・・・・・・・・資 6

【 補 充 資 料 4 - 2 】

ポイントキャッチメモ（裏面）・・・・・・・・・・・・・・・・資 6

【 補 充 資 料 5 - 1 】

キーワードキャッチメモ（表面）・・・・・・・・・・・・・・・・資 7

【 補 充 資 料 5 - 2 】

キーワードキャッチメモ（裏面）・・・・・・・・・・・・・・・・資 7

【 補 充 資 料 6 】

ハートキャッチメモ・・・・・・・・・・・・・・・・資 8

【 補 充 資 料 7 】

ハートキャッチメモ・・・・・・・・・・・・・・・・資 8

【 補 充 資 料 8 】

ハートキャッチメモ・・・・・・・・・・・・・・・・資 9

【補充資料1】手だての試案作成のための実態調査問題

聞く学習についてのアンケート

五年B組 番

このアンケートは、聞く学習についてのみなさんの考えや活動の様子を知りたいです。これから学習の振り返りや授業中の話し合い活動をしていく中で、先生や友達の話をメモを取りながら聞くことがあってもいいですか。

一 あなたは授業中や話し合い活動の中で、先生や友達の話をメモを取りながら聞くことがあってもいいですか。

ア 全くある
イ とてもある
ウ あまりない
エ ない

二 あなたは、先生や友達の話を聞いているとき、その話に対する自分の考えが思いつくことがあってもいいですか。

ア 全くある
イ とてもある
ウ あまりない
エ ない

三 ①話し合い活動のとき、あなたは、友達の考えを聞いて、それに対する賛成意見や反対意見を発言しようと思ってもいいですか。

ア 全く発言していません
イ とてもよく発言しています
ウ よく発言しています
エ 発言していません

② ①でア、エと答えた人は、その理由を教えてください。

【補充資料2 - 】話し手の意図をつかみながら聞く能力の育成状況を見る事前・事後テスト用紙

「聞くこと」についてのテスト

五年B組 番

一 今から先生が話す話を聞いて、一番伝えたいことが表れているのはどの文か考えましょう。

(一) 一番伝えたいことが表れているのは、何番の文だと思いますか。

(二) (一)で答えた文が、一番伝えたいことが表れていると思ったらどうしてですか。理由を書いてください。

二 今から短い話をします。メモを取りながら聞きましょう。

三 今から話す話を、家に帰ってから家族に伝えるとしたら、あなたはどのように伝えますか。実際に話すように書いてください。

【補充資料2 - 】話し手の意図をつかみながら聞く能力の育成状況を見る事前・事後テスト問題

構成要素	テ ス ト 問 題
聞きとりの観点に着目する力	<p>1 今から先生が話す話を聞いて、一番伝えたいことが表れているのはどの文か考えましょう。</p> <p>私の好きなスポーツは水泳です。 そのわけは水の中をすべるように進んでいく感じが好きだからです。 それに、水泳をするようになってから、体が丈夫になりました。 だから、わたしはこの先もずっと水泳を続けていこうと思っています。</p> <p>(1) 一番伝えたいことが表されているのは、何番の文だと思いますか。 (2) (1)で答えた文が一番伝えたいことが表されていると思ったのはどうしてですか。理由を書いてください。</p>
キーワードを見付ける力	<p>3 今から先生が短い話をします。メモを取りながら話を聞きましょう。</p> <p>私の好きな有名人は、宇宙飛行士の毛利衛さんです。毛利さんが好きな理由は3つあります。</p> <p>一つは、夢を実現させたところです。毛利さんは、小さい頃から宇宙飛行士になりたいと思っていたそうです。子どもの頃の夢を実現させるなんてすごいことだと思います。</p> <p>二つめは、いつも頑張る気持ちを持ち続けるところです。毛利さんは1999年、2度目の宇宙旅行を果たしました。2度目の宇宙行きを決意したのは、1回目のときにやり残したことがあったからだそうです。やり残したことをそのままにせず、また頑張って取り組もうとした姿勢は、素晴らしいと思います。</p> <p>三つめは、国際的に活躍しているところです。私は将来、通訳の仕事をしたいと思っています。それは、世界中の人々と話をしたいと思ったからです。宇宙飛行士として、世界の人と交流をする毛利さんは、私のあこがれです。</p> <p>これらのことから、私は毛利衛さんが好きです。</p>
話し手の伝えたかったことを受け止める力	<p>4 今から話す話を、家に帰ってから家族に伝えるとしたら、あなたはどのように伝えますか。実際に話すように、書いてみてください。</p> <p>私は、総合的な学習の時間にタイの小学生の暮らしについて調べました。そのことについて発表します。</p> <p><タイの小学生マナの暮らし></p> <p>マナは、11才。タイという国の北の方にある小さな村、クロンガジョンに住んでいる小学生。マナは、朝学校へ行くとき、みんなと一緒に渡し船に乗っていきます。マナは、体育の時間が大好きです。タイでは、バレーボールも卓球もサッカーも、学校で習います。</p> <p>昼ご飯は、もってきたおかずを真ん中において、みんなで食べます。誰がどれを食べても構いません。家に帰ると、川で遊びます。タイは、緑が豊かな暑い国です。1年中、水浴びをして遊ぶことができます。</p> <p>このように、タイの小学生の生活は日本の小学生の生活とはかなり違ってしています。みなさんは、タイの小学生の生活と日本の小学生の生活を比べて、どう思いましたか。</p>

【補充資料3 - 】単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導案
第5学年国語科学習指導案

指導期間 平成16年8月30日～9月9日

指導学級 平泉町立平泉小学校5年B組

男子14名 女子12名 計26名

1 単元名「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」

2 単元について

(1) 児童について ～略～

(2) 単元について ～略～

(3) 指導について

この単元では「聞くこと」の勉強であることを児童にもしっかりと認識させ、自分の聞く力がどのくらい高まったか意識をもたせながら進めるような学習にしたい。

まず最初にこの学習の概要をつかませ、すぐ聞き取りの観点に着目する段階に入る。この段階では、話を聞き取るときに観点を押さえ、何に着目して話を聞けば話し手の伝えたかったことを聞き取れるようになるのかを「ポイントキャッチメモ」を用いて指導する。次は、聞き取りの観点を通してメモを取り、その中からキーワードを見付ける学習を「キーワードキャッチメモ」を通して指導する。キーワードを見付けるときも聞き取りの観点を意識させたい。次は、話し手の伝えたかったことを受け止める段階に入り、それまで学習してきたことを使いながら、話し手の伝えたかったことを聞き取り、それに対して自分はどうか考えたのかを表出するところまでを「ハートキャッチメモ」を用いて指導する。ここでは、話し手の伝えたかったことを自分の考えを交えて再構成することに重点を置いて指導するが、この段階は今まで習ってきたことを使って学習を進めるところなので、時間をかけ、復習の意味も込めて丁寧に指導していきたい。

3 単元の目標

話し手の意図を考えながら話を聞くことができる

- ・話を聞くときの観点が分かり、キーワードをとらえることができる。
- ・話し手の伝えたかったことを、自分の考えも交えて再構成することができる。

【補充資料3 - 】単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（2/7時間）

(1) 目標

話を聞くときの観点を理解し、観点に沿って話を聞くことができる

(2) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (キャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する 話を聞くときのポイントをつかみ、 話を聞いてみよう	
展 開 (35)	2 話の組立てを知り、話を聞いて分けてみる 3 話の組立ての中で、話し手が特に伝えたいことは「はじめ・中・終わり」のどの部分にくることが多いか考える 4 文末表現に着目させて、事実を表す文と意見を表す文に分ける 5 話を聞き、演習をする	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ・中・終わり」の3段構成を指導する ・3文スピーチ、5文スピーチを用いて説明してから演習に入る ・演習で使ったものを用いて考えさせる（頭括型、尾括型のスピーチを聞かせる） ・尾括型の場合、接続語にも着目させる ・演習で使ったものを用いて考えさせる ・最初は文を見ながら話を聞く ・文章を「はじめ・中・終わり」の枠に当てはめさせる ・着目する接続語や文末表現に線を引かせる ・2回目は、文は見ずに話を聞くだけで演習に取り組む
終 末 (5)	6 話を聞くときの観点についてまとめる 7 次時の予告をする	<ul style="list-style-type: none"> ・話の組立て、接続語、文末表現に着目することを確認する

(3) 評価

話を聞くときの観点に着目することができるようになったか。

【補充資料3 - 1】 単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（3/7時間）

(1)目標

メモの取り方を理解し、キーワードをとらえることができる。

(2)展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (キーワードキャッチメモの用い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する メモの取り方を知り、キーワードを見付けよう	
展 開 (35)	2 簡潔なメモの取り方を考える 3 話の組立てに着目してメモを取る 4 メモの中から、キーワードを選ぶ 5 全員でどれがキーワードか話し合う 6 キーワードから感じ取れることをまとめる 6 演習をする（3話）	<ul style="list-style-type: none"> ・大事だと思うことだけを短く書くこと ・言葉を囲んだり、線で結んだり、記号を使ったり、自分でわかりやすい方法を工夫すること ・既習の話の組立てに着目し、「はじめ・中・終わり」の欄に当てはめてメモを取らせる ・意見を表す文に着目し、話し手の伝えたかっと思われることに直接かかわる言葉を選ぶ ・キーワードが足りなかったり、多すぎたりした場合はメモを修正していく ・話し手が一番伝えたかっことを簡単にまとめる
終 末 (5)	7 メモの取り方、キーワードの選び方を確認する 8 次の予告をする	<ul style="list-style-type: none"> ・メモは短めに取り、線で結ぶなどの工夫をするとよいことを確認する ・キーワードは、意見を表す文に着目して話し手の伝えたかっことにつながる言葉を選ぶことを確認する

(3)評価

メモの取り方が分かり、キーワードを選べるようになったか。

【補充資料3 - 2】 単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（4/7時間）

(1)目標

話し手の伝えたかっことを自分の考えも含めて組立て直すことができる

(2)展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (ハートキャッチメモの用い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する 話し手の伝えたかっことを自分の考えも含めてまとめよう	
展 開 (35)	2 話を聞き、メモを見ながらキーワードを選ぶ 3 話し手の伝えたかっことを組立て直す 4 組立て直したものに自分の考えを添える 5 指導者の組立て直した例文を見ながら、話し手の伝えたかっと思われことやキーワードを確認する 6 演習をする（1話）	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かして取り組ませる ・短い話から始め、徐々に長さや話の種類も変えていく ・話し手の話を伝聞の形で表すことにより、話し手の話という感覚を強調する ・初めは話し手の話全体に対する考えを簡単に添えるところから、徐々に自分の考えを織り交ぜて組立て直すようにする ・自分の組立て直した文も見直し、加除修正したい部分がある場合は自分で行う。
終 末 (5)	7 演習でまとめたものを発表する 8 次の予告をする	<ul style="list-style-type: none"> ・参考にして欲しいところを強調する

(3)評価

自分の考えも交えながら、話し手の伝えたかっことを組立て直すことができたか。

【補充資料3 - 】単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（5/7時間）

(1)目 標

キーワードを基に、話し手の伝えなかったことを自分の考えも含めて組立て直すことができる

(2)展 開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (ハートキャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> キーワードからすぐ話し手の伝え なかったことをまとめよう </div>	
展 開 (35)	2 話を聞き、メモを見ながらキーワードを選ぶ 3 キーワードを基に話し手の伝えなかったこと を自分の考えも交えながら組立て直す 4 全員で話し手が伝えなかったと思われること とキーワードを確認する 5 演習をする（1話）	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かして取り組ませる ・キーワードを振り返ることで話の内容を振り返り、それに対す る自分の考えも交えながら、話し手の伝えなかったことを組立 て直す ・組立て直した文に、話し手の伝えなかったこととキーワードと、 自分の考えが交えてあるか確認する
終 末 (5)	6 演習でまとめたものを発表する 7 次時の予告をする	<ul style="list-style-type: none"> ・参考にして欲しいところを強調する

(3)評 価

キーワードを基に、自分の考えも交えながら話し手の伝えなかったことを組立て直すことができたか。

【補充資料3 - 】単元「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」の指導展開案（6/7時間）

(1)目 標

話し手の伝えなかったことを自分の考えも含めて組立て直すことができる

(2)展 開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (ハートキャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 話し手に話しかけるようにまとめて みよう </div>	
展 開 (35)	2 話を聞き、メモを取り、キーワードを選ぶ 3 キーワードを基に話し手の伝えなかったこと を自分の考えも交えながら、話し手に話 しかけるようにまとめる 4 演習をする（1話）	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かして取り組ませる ・話し手に話しかけるように書くことで相手意識をもたせ、話し合 いの場面にも応用が利くようにする
終 末 (5)	5 まとめたものを発表する 6 次時の予告をする	<ul style="list-style-type: none"> ・参考にして欲しいところを強調する

(3)評 価

キーワードを基に、自分の考えも交えながら話し手の伝えなかったことを、話し手に話しかけるようにまとめることができたか。

【補充資料4 - 】ポイントキャッチメモ（表面）

話し手の考えをとらえながら話を聞こう 【ポイントキャッチ】

① 私は三年前からずっと同じ筆入れをつかっています。

② 二年生のときに転校した田中さんからもらったものです。

③ 田中さんのことを忘れないうように、これからも大切に使うつもりです。

番号	
----	--

おわり	はじめ	組立て	意	見	事	実
		当てる文の番号とメモ				
おわり	中					

① 私は二重とびができるようになりました。

② どうしてできるようになったかという点、毎朝休まず、自主練習したからです。

③ お姉ちゃんに跳び方を見せられて、悪いところを直してもらったりもしました。

④ 放課後も友達の田中さんにコツを教えてもらって、みんなで練習したこともあります。

⑤ こうして、私は二重とびができるようになり、努力したかいがあったなと思いました。

番号	
----	--

おわり	はじめ	組立て	意	見	事	実
		当てる文の番号とメモ				
おわり	中					

文の終わりの言い方に気を付けて聞くといいぞ



【補充資料4 - 】ポイントキャッチメモ（裏面）

話し手の考えをとらえながら話を聞こう 【ポイントキャッチメモ】

(1)

おわり	はじめ	組立て	意	見	事	実
		文の番号とメモ				
おわり	中					

(2)

おわり	はじめ	組立て	意	見	事	実
		文の番号とメモ				
おわり	中					

(3)

おわり	はじめ	組立て	意	見	事	実
		文の番号とメモ				
おわり	中					

(4)

おわり	はじめ	組立て	意	見	事	実
		文の番号とメモ				
おわり	中					

話を聞くときのポイント

① 話の

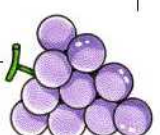
② 言葉

③ 文の

・意見を表す文か
・事実を表す文か

判断する

から



⑤ 今日授業の感想
◇ポイントキャッチメモを使って、どう思いましたか。

【補充資料5 - 】キーワードキャッチメモ（表面）

話し手の考えをとらえながら話を聞こう
【キーワードキャッチ】

おわり	中	はじめ	組立て		
メ			モ		
			<table border="1" style="font-size: 0.8em;"> <tr><td>事実</td></tr> <tr><td>意見</td></tr> </table>	事実	意見
事実					
意見					

①話し手が一番伝えたいところは、ここがここにあるのか考えよう
話し手が一番伝えたいところは、ここに關係のある言葉を囲まろう

話し手が伝えたいことをまとめると

【キーワードも書いてまとめてみよう】

話し手は何を伝えたいか、思っていたのか？「はじめ・中・おわり」のキーワードを使ってまとめよう。

	番
--	---

【補充資料5 - 】キーワードキャッチメモ（裏面）

話し手の考えをとらえながら話を聞こう
【キーワードキャッチメモ】

おわり	中	はじめ	組立て		
メ			モ		
			<table border="1" style="font-size: 0.8em;"> <tr><td>事実</td></tr> <tr><td>意見</td></tr> </table>	事実	意見
事実					
意見					

話し手が伝えたいことをまとめると

◎今日の授業の感想
◇「キーワードキャッチメモ」を使ってキーワードを見つけることについて、どう感じましたか。

キーワードの選び方

①話し手が [] を話している文を見つける。

②その文に關係のある言葉を [] のところから選ぶ。

	番
--	---

【補充資料6】ハートキャッチメモ（表裏同じ）

話し手の考えをとらえながら聞こう
 【ハートキャッチ① 話し手の伝えたかったに自分の考えを交えて】

番号	
----	--

細立て	メモ → キーワード	書き

キーワードを用いて伝えよう

話し手の伝えたかったこととまとめると

自分の考えを交えてみよう

自分の考えを交えて、話し手の伝えたかったことを伝えよう

話し手が一番伝えたい文の言葉は□、キーワードは○でかこもう。

【補充資料7】ハートキャッチメモ（表裏同じ）

話し手の考えをとらえながら聞こう
 【ハートキャッチ② キーワードから話す話し手の伝えたかったことをまとめてみよう】

番号	
----	--

細立て	メモ → キーワード	書き

話し手が伝えたかったことを自分の考えを交えて伝えよう

話し手が一番伝えたい文の言葉は□、キーワードは○

ハートキャッチ

話し手が伝えたかったことを自分の考えを交えて伝えよう

話し手が一番伝えたい文の言葉は□、キーワードは○でかこもう。

【補充資料8】ハートキャッチメモ（表裏同じ）

話し手の考えをとらえながら聞こう
【ハートキャッチ③ 話し手に気づいたことを伝えよう】

番	
---	--

話し手が一番伝えたい文の言葉は□、キーワードは○

メモ ↓ キーワード

話し手が一番伝えたい文の言葉は□、キーワードは○

話し手に気づいたことを伝えよう

ハートキャッチ

◎ 今日の仕事の感想

◇ 話し手の伝えたいことを自分の考えも交えてまとめよう、話し手の伝えたいことの伝え方はどうなりましたか。

メモの中の
話し手が一番伝えたい
文の言葉 □

キーワード ○

を使ってまとめよう

